

非衣料用途へのシフトを強める台湾化繊産業

6月11日、12日の2日間、中国・杭州市で開催された第15回中国国際化繊会議における台湾紡拓会（TTF）並びに台湾化繊協会（TMMFA）の講演内容に基づき、台湾化繊産業の近況と今後の方向を紹介する。

表1に台湾の化学繊維生産能力の推移を示す。
2008年の化繊生産能力は8,700トン／日（年間で313万トン）で、2004年対比では18％減となった。5年間の推移をみると、ナイロンが拡大傾向を見せ、レーヨンスが横這いとなったが、これ以外の素材の生産能力はいずれも縮小している。

生産能力構成比率（2008年）は、ポリエステルf（49.0％）、ポリエステルs（21.7％）、ナイロン（20.4％）、レーヨンス（5.1％）、アクリルス（3.6％）、スパンデックス（0.2％）で、ポリエステルとナイロンで全体の9割を超える。

表1 台湾の化繊生産能力の推移
（単位：トン／日）
出所：台湾化繊協会

年度	ポリエステル		ナイロン		アクリルス	レーヨンス	スパンデックス	合計
	f	s	f	s				
2004年	5,289	2,778	1,637	33	424	440	33	10,634
2005年	4,898	2,586	1,660	33	434	440	34	10,085
2006年	4,904	2,586	1,584	33	434	440	34	10,015
2007年	4,361	1,888	1,745	33	360	440	18	8,845
2008年	4,263	1,888	1,738	43	310	440	18	8,700

次に、表2に化学繊維生産量及び出荷量の推移を示す。
2008年の化繊生産量は211万トン（ポリエステルf（102万トン）、ポリエステルs（50万トン）、ナイロン（40万トン）、アクリルス（8万トン）、レーヨンス（11万トン））で、前年比19％減、2004年比では31％減となった。

過去5年間の出荷量の推移をみると、国内向けと輸出の割合はほぼ一定レベル（国内向け出荷62％、輸出38％（2008年））を保ちながら、ともに数量を減らしている。

表2 台湾の化繊生産及び出荷実績の推移
（単位：千トン）
出所：台湾化繊協会

年度	生産量	出荷量		
		合計	国内	輸出
2004年	3,077	3,054	1,836	1,218
2005年	2,678	2,670	1,565	1,105
2006年	2,495	2,532	1,466	1,066
2007年	2,592	2,581	1,592	989
2008年	2,109	2,116	1,312	804

世界的な不況の中、台湾の化繊産業は高機能・高性能テキスタイルの開発と非衣料用途の拡大を進むべき方向として打ち出している。

表3に示すとおり、衣料用：家庭用：産業用の構成比率は2007年は、62：12：26であったが、2015年には家庭用と産業用の比率を上げて50：17：33にすることを目指す。同時に、高機能・高性能テキスタイルの開発に注力することによって付加価値向上を図り、生産額を2007年の4,720億NT\$から2015年には23％増の5,800億NT\$とすることを目指す。

表3 台湾のテキスタイルの用途別構成比率
出所：台湾繊維産業連盟

	2000年	2007年		2010年	2015年
生産額 （十億NT\$）	489	472		550	580
構成比 （衣料用：家庭用：産業用）	80:10:10	62:12:26		57:15:28	50:17:33

高機能・高性能テキスタイルの開発だけでなく、評価方法やマーク制度の開発・整備にも取り組んでいる。
これまでに、抗菌性、消臭性、防カビ性、電磁波遮蔽、吸湿速乾性、防シワ性、制電性、遠赤外線放射、防汚性、防災性などの各種評価方法を確立しており、評価方法と認証取得製品をウェブサイト（<http://tft.ttfapproved.org.tw>）上で公表している。